

学部の窓



名城大学
都市情報学部

CONTENTS

01 特集

CBML

地域と協同し、課題の発見・提案・解決を実践的に学ぶ
都市情報学部学生主体の教育プログラム

05 教授インタビュー

学びを深める専門講義

12 クロストーク

都市情報学部のゼミナール選び

21 都市情報学部×商店街

22 卒業生の今

24 キャリア情報

25 先輩に聞いてみた！



名城大学 都市情報学部

学部の窓

特集

CBML

Community Based Machizukuri Learning

地域と協同し、課題の発見・提案・解決を実践的に学ぶ
都市情報学部学生主体の教育プログラム

都市情報学部の先生や仲間と共に 自ら学び、考え、かたちにしていける経験を

2019年にスタートし、今年で4回目となる「CBML(Community Based Machizukuri Learning)」。

昨年までは岐阜県美濃加茂市を舞台に展開していましたが、2022年度はキャンパスのある名古屋市東区にフィールドを移して活動を行いました。地域における課題の捉え方は多様です。今回は、東区が目指す3つのまちの姿「①ひとが支え合い、災害に強く、安心・安全で快適に暮らせるまち」「②誰もがいきいきと健康に暮らし、活躍できるまち」「③歴史・文化などを生かした魅力にあふれるまち」から個々で興味のあるテーマを選び取り、目指すべきまちの姿と、学生や若者が主体となる取り組みを考えました。参加したのは、都市情報学部の1年生21名。5つのチームにわかれ、アンケート調査やフィールドワークを繰り返しながら、自分たちらしい提案をまとめていきました。

都市情報学部には多様な学問を専門とする先生が在籍し、さまざまな分野に関心を持った学生が学びを深めています。また、地域に開かれたキャンパスで、学外の専門家と関わる機会、地域住民と関わる機会にも恵まれています。そんな環境で、いろいろなことに興味を持って自ら調べてみる・動いてみる、そして自分が思ったことや感じたことを仲間と共有し、共に考えを深めていく楽しさを知る、CBMLはそんな場になっています。

FIELDWORK

特集

参加学生と振り返るCBML2022

9月から12月までの2ヶ月半ほど、全12回にわたって開催してきたCBML。
今回、Cチームとして参加した井上雄貴さんと一緒に、2022年のCBMLの活動を振り返ります。

① イントロダクション・マインドセット

東区が求める3つのまちについての説明を聞いたのち、自己紹介を行いました。同じ学年とは言え、初めて顔を合わせる学生もありました。1回目の最後には「CBML2022“私の目標”宣言」として、CBMLを通して自分がどうなりたいかを書き出し、発表しました。

まだ何ができるかわからないけれど、自分を変えられたらいいな

井上さん
Voice

② 地域とテーマの理解

フィールドワークに向けたインプット回。前半は、東区企画経理室の今井裕紀さんより区が目指す将来像と現状・課題について、後半は、地域問題研究所の池田哲也さんからレクチャーを受けました。最後にグループに分かれて自分なりの着眼点を見つけ、共有しました。

“自治体は完璧な存在で、僕らにできることはない”という固定観念がありました

井上さん
Voice



③ フィールドワーク・ワークショップ

3つのテーマをベースに、初のフィールドワークを実施。【①地域防災】は防災士の樗佳代さんから防災活動についての紹介。【②健康福祉】は、高岳げんき館や児童館、福祉会館などを見学し、社会福祉協議会の太谷未央さんのお話を聞きました。【③歴史文化】は、ボランティアガイドのみなさんの案内で文化のみちを巡りました。実際に現場を見て、地域の人の生の声を聞く貴重な機会となりました。

実際に地域の人の声を聞くことで、新たな発見がたくさんありました

井上さん
Voice



④ チームづくり

東区への提案に向けて考えを共有し、チームをつくる回です。まずはフィールドワークの感想をグループでシェア。個々が取り組みたいテーマとビジョンについてプレゼンし、コメントをもらい合う交流会は予想以上に白熱！ 最終的には5つのチームが完成しました。

⑤ データを読む

企画を練る前に、テーマについてより深く考えるためのインプットをしました。テーマごとにキーワードを出し合い、それぞれ理解を深めたのち、鈴木淳生教授による「データサイエンスの視点を得る」レクチャーへ。データの活用的重要性、分析・解析の方法、合理的な判断や意思決定といったプロセスを学びました。実際にe-Stat(政府統計の総合窓口)を使って、検索操作の演習も行いました。

データの正しい見方や活用法を学ぶことで、企画の糸口が見つかりそう！

井上さん
Voice



1年 井上 雄貴 さん

この目でまちを見ること、声を聞くことの大切さ

Webで検索したり、取り組み内容を資料を見ているだけの当初は「この自治体は完璧だから、手を入れる場所なんてないのでは？」と思い込んでいました。でも実際に現場の声を聞いたり、仮説を立てて深掘りしてみると、表層では気付かなかった問題点や新しいアイデアが浮かんできて、そこから活動がとて楽しくなりました。「まちへ飛び出してみる」という経験をしたことで、まちに対して興味関心を持って関わる楽しさを知ることができました。

⑥ 自分ごととして地域課題を考える

田口純子准教授による「デザイン思考を用いた地域課題の解決方法」のレクチャー。チームごとにビジョンと「目指すまちの姿」を決め、ターゲット像(ペルソナ)を決めました。次回までに、目指すまちの姿の実現のためにペルソナにとって何が必要かを各自で調べてくるという課題が出ました。



⑦ デザイン思考WS

ターゲット像(ペルソナ)についての調査やインタビューを行いました。フィールドワークやこれまでのレクチャーを通して知ったことを踏まえて、改めてペルソナにとって何が必要かを考えました。ペルソナが抱える隠れたニーズを見つけ出し、その解決策を考えます。

ペルソナを想像してニーズを見つけ出すことは思った以上に難しかった…！

井上さん
Voice



⑧ 中間発表

前半は、前回に引き続いて「ペルソナの悩みを掘り出し、解決アイデアを出す」グループワークの続きを行いました。後半は進捗のシェアを兼ねた中間報告会へ。それぞれのグループが現状と今後の計画を発表し、教職員からコメントやアドバイスを受けました。

ほかのグループの中間発表を聞いたことで、とても刺激を受けました！

井上さん
Voice

⑨ 発表内容の検討

最終発表に向けて、内容をブラッシュアップしました。各チームそれぞれテーマに沿って「目指すまちの姿」「ターゲット像(ペルソナ)」を確定し、最終発表のための資料をまとめる準備をしました。Bチームは「高岳げんき館」へ再訪してアンケートを実施。地域問題研究所の西村さんからは、他グループの発表を自分のグループにもフィードバックする「聞く姿勢」のアドバイスがありました。

⑩ 大学関係者向け事前プレゼンと発表内容の検討

12月9日の最終発表に向けて、プレゼン内容をブラッシュアップして資料を完成させました。発表用のPowerPointをつくり、プレゼンテーションの練習として教授や大学関係者へ発表をして、フィードバックをもらいつつ、編集・改善を繰り返しました。

⑪ 最終発表と ⑫ ふり振り返り(私の新たな一歩宣言！)

東区の高木俊孝区長をはじめ、市役所職員等、学外の12名の方に向けて最終発表を行いました。グループごとの発表のあとに、質疑応答、そして講評をいただき、フィードバックシートの記入もしていただきました。関係者からは、学生とのコラボレーションのオファーなども飛び出し、今後の展開が期待されます。インプットからデザイン思考ワークショップを経て、アイデアの創出、アンケート調査、プレゼンテーションと、時間と頭をフルに使った2ヶ月間でした。

発表は緊張しましたが、内容を高く評価していただけてとても嬉しかったです！

井上さん
Voice



まちに興味を持ち、まちへ飛び出すきっかけに

受講生が東区と深い縁ができたことや、自分ごとのように考え、アイデアを出して素晴らしい発表をしてくれたことは大きな財産だと思います。ただ、この地域で活動することだけが全てではありません。この経験を通して、自分の地元のことを見つめ直すきっかけになったり、好きなまちができたリ、もう一歩踏み込んで「行ってみよう」「話を聞いてみよう」と動けたりと、CBMLの卒業生がいろいろな地域で活躍してくれることを願っています。



田口 純子 准教授

成果発表

Result presentation

A テーマ 地域防災

学生主体で企画・運営する 地域住民たちに向けた防災教室

防災への関心があってもどう対策すればわからない人に向けて、防災教室を開催する企画。被災経験のある方の体験談やレクリエーション、消費期限の近い非常食の配布などを行い、避難時の行動やハザードマップの確認といった防災への基礎知識を持てるようにすることを狙っています。防災への関心の高まり、防災訓練への参加率の向上はもちろん、それだけでなく、地域と繋がることで他の地域課題への関心の高まりも期待しています。

B テーマ 地域防災 & 健康福祉

どんなときも世代を超えて 互いに助け合えるまち

防災意識を高め、互いに繋がり合えるきっかけをつくるため、2つの案を考えました。ハザードマップから災害時に危険な場所や安全な場所を洗い出し、それらをチェックポイントとして指定した「ハザードマップ・ウォークラリー」。そして東区の「高岳げんき館」で世代間を超えたつながりをつくるために、画用紙に付箋を貼る方法で気軽に行う「文通企画」です。学生も地域住民も顔見知りとなり、互いに助け合えるまちを目指しています。

C テーマ 健康福祉

「子育てしやすいまち」から 誰もが福祉を受けやすいまちへ

自分たちが近い未来、当事者になることも考えて「東区ではじめて子育てをする女性」をターゲットに設定。関係者への取材や、当事者へのアンケートなどを行いました。SNSで子育てサロンを広める広報活動のほか、学生が主体となった親子レクを大学のカフェで開催することで交流の場を増やす企画を発表しました。若い人が福祉に関わることで福祉がぐんと身近なものになること、さらに子育てがしやすいまちになることを期待しています。

D テーマ 健康福祉

外国人住民の不安を解消する 「マナーブック」を作成

市民に占める外国人人口の割合が多い東区。言葉が通じにくい外国人でも住みやすいと感じられるまちを目指し、当事者へのアンケートを行いました。そこで、学生主体でマナーブックの作成を提案。東区内にある海外専門の飲食店を掲載したり、食事やゴミ捨てのマナーについて明記したりと、必要な情報を編集します。結果的に、どんな人にとっても住み良いまちになること、外国人から「住みたい」と思われるまちになることを期待します。

E テーマ 歴史文化

超マイクロツーリズムの振興、 シビックプライドの醸成

フィールドワークで「魅力的な歴史的建造物が多い」ことを知り、それをもっと若い世代に広めることを考えました。名城大学の学生が、講義間の空き時間の過ごし方に困っていることに着目し、空きコマ90分+昼休み50分の計140分で巡るコースを作成。徳川園周辺を散策するコースと、文化のみちを満喫するコースに昼食の候補店も入れてまとめることで、若い世代にも東区の魅力を感じてもらい、シビックプライドの醸成に繋がります。

私の新たな一歩宣言！

CBMLで気づいた「言葉にする大切さ」。いつでも自分の言葉で伝えられるようにしたい！

気になった場所
はまず行ってみて
実際に見ることから始めたい

防災をはじめとした地域の問題に
これからも目を向けていきたいです

災害時に助け合える関係を築くために近所にも積極的に声をかけて、仲良くなりたい

どんな地域にも魅力があるはず！自分が住んでいる地域の魅力を深掘りしたい

自分で決めたことを、最後までやり切りたい！

地域と関わるためにボランティアに参加したい！

地元の魅力を、自分なりに発信したい！

教科書や資料を読んだり、検索するだけでわからない“ストーリー”を現地に足を運ぶことで知り深められる人になりたい

今まで知らなかった街の魅力を知るために、まずは自分の地元から歩いてみたいです

目の前にあるものに、食欲に手を伸ばしていきたい

積極的に人と話せるようになりたい！

日々新たなことに挑戦したい

学んだこと・体験したことをちゃんと自分のものにしたい

CBMLを振り返って、「私の新たな一歩」を宣言しました。

教授インタビュー

学びを深める 専門講義

現代都市が抱える問題を解決する
「都市情報学」。

数多くの講義の中から6講義をピックアップし、講義内容や学びを深めるヒントについて紹介します。

専門 講義

P06

企業の経営 | リアリティのある企業の“良い”経営を探る
雑賀 憲彦 教授

P07

都市と財政 | 政府や地方自治体の経済活動を分析する
赤木 博文 教授

P08

水環境とまちづくり | 現在の水環境を理解し未来の環境を考える
張 昇平 教授

P09

環境の評価 | 環境の価値を学び、未来を創造する一歩を
大野 栄治 教授

P10

データ分析と確率 | 確率論とその考え方を通して問題解決力を身につける
宇野 隆 教授

P11

プログラミング入門 | 情報社会を生き抜く武器を携えよう
水野 隆文 教授

LECTURES



リアリティのある 企業の“良い”経営を探る

雑賀 憲彦 教授 *Prof. Saiga Norihiko*

企業の経営
2年次前期配当科目／専門部門（経済・経営科目群）

実例から学ぶ、企業のリアルな経営活動

— この講義は、どのような内容なのでしょう。

「企業の経営」は、企業経営全般の知識を提供している講義です。経営理論や企業の経営活動について紹介するほか、さまざまな経営指標の見方についても解説しています。私は日本総研*の出身で、実務経験を有した経営学者です。前職時代も含めると150社以上の企業の経営改善をしてきました。講義では企業経営の理論的な話もありますが、それだけでは学生の興味を引くことは難しいので、私の経験を元にした、かなりリアルな実例を話しながら進めています。文理融合の都市情報学部において、経営に興味がない学生も少なくありません。経営学をもっと身近に感じてもらえるように難しい理論もわかりやすく簡潔に伝えることで、経営学に興味湧くような講義を心がけています。私の実体験を通して、学生自身が疑似体験として受け止めてくれることを期待しています。

*日本総研…日本総合研究所。シンクタンク・コンサルティング・ITソリューションの3つの機能を有する総合情報サービス企業。

— 講義を通して、どのようなことを身につけてほしいですか。

私は常々「経営学は人間学だ」と思っています。マネジメントの本質は、人間の上下関係。企業の上下の人間関係の難しさ、グループリーダーになったときにどのようにリーダーシップを発

揮すべきか、また部下を持つ立場になったときにどのようにメンバーの力を発揮させ結集させるのか、といった実践的な内容にも触れていきます。これらは学生時代はもちろん、社会で活躍するためにもとても重要で役に立つ知識です。私は、現在もリアルに企業と対話し続けている経営学者です。経営学に基づいたコンサルティングで今を生きる企業を元気にするとともに、現場の企業人と常に会話していることを学生の学びの場へ落とし込むことを大切にしています。これがこれからの経営学に必要なリアリティのある学びなのではないでしょうか。

社会でいち早く活躍できる人を目指して

— 学生には、社会に出てどのように活躍してほしいですか。

社会に出ていち早く、リーダーとなって組織を率いることのできる人材になってほしいと思っています。私の講義では「マーケティング」「マネジメント」「組織論」「リーダーシップ」など、社会に出てから誰もが口にする言葉がたくさん出てきます。つまり、厳しい社会を生き抜いていくために、極めて重要な学問なのです。私は講義でもゼミでも、学生の今後の人生の幸せにつながることを伝えたいと常々思っています。社会に出て人間関係につまづいたときに「雑賀先生がそういえばあんなことを言っていたな」と思い出せるエピソードを、なにかひとつでも心に残せたら理想ですね。



政府や地方自治体の 経済活動を分析する

赤木 博文 教授 *Prof. Akagi Hirobumi*

都市と財政
2年次後期配当科目／専門部門（財政・行政科目群）

政府・地方自治体の在り方をまず「疑ってみる」

— この講義では、どのようなことを学びますか。

政府や地方自治体の経済活動を分析する「財政学」を学びます。経済には市場メカニズムだけではうまくいかない分野が存在するため、政府にはそれを補完する役割があり、公共財や社会保障がそれにあたります。政府に求められる役割に加え、現在の予算制度や選挙などを経済学的に分析する公共選択論などを学びます。財政学に関するスタンダードな学説を、身近な事例を挙げて紹介することで、内容が理解しやすい講義になるよう、心がけています。

— 講義を通して、どのようなことを身につけてほしいですか。

政府や地方自治体は、学生たちが生まれたときから当たり前に機能している存在です。きつと「なぜ政府が必要なのか？」という疑問なんて微塵も持つことなく暮らしてきたと思います。しかしこの「なぜ？」「どうして？」と疑問を持つことこそが、学問の進歩につながってきました。講義では、まず政府や地方自治体を批判的に見る目を養ってほしいと思っています。政府や地方自治体の理想の姿を知れば、現状が理想と乖離していることに気づけるはずです。「政府や自治体は常に正しいものだ」「間

違うはずがない」と妄信するのではなく、現実の政府や地方自治体の行動を疑ってみることが学問の始まりであり、自分たちの暮らしをより良くしていく一歩になります。また、私たち選挙民が政府や自治体の経済活動を厳しく見る目を持つことは、政府や自治体のレベルを引き上げることにもつながります。この講義では、その判断に役立つ知識や考え方を身につけてほしいと思っています。

さまざまな学問の考え方、ものの見方に触れよう

— 都市情報学部で、どのようなことを学んでほしいですか。

財政や経済学的な考え方を身につけることを通して「疑問を持つてみる習慣」をつけてほしいと思っています。この学部には様々な分野を専門とする優秀な先生方がそろっていて、それぞれの学問や分野に、特有のものの見方・考え方があると思います。都市計画や情報、経済などを広く学び、柔軟に吸収していくことで、いろいろなものの見方や考え方に触れてほしいと思っています。

学生生活はあっという間です。貴重な4年間のうちに、自分の柱になるようなものを見出し、充実した日々を送ってほしいと思います。

経営戦略入門
雑賀 憲彦 著（ふくろう出版）

人生に役立つ経営学
雑賀 憲彦 著（三恵社）

「経営戦略入門」は、経営戦略の基本的な理論を体系的に理解するための入門書です。実際の企業事例を取り上げながら、現場でどんな経営戦略が用いられ、どんな効果を上げているか解説しています。経営戦略を身近なものとして捉えることのできる一冊です。読みものとして楽しめる「人生に役立つ経営学」もおすすめです。

学生の声

雑賀先生はユーモアや小ネタを挟みながら講義を進めてくださるのでとても楽しく、理解しやすいです。この講義では、マネジメントの方法や人間関係論など、日常生活やこれからの社会人生活に役立つ内容が多いです。先生の経験談から、良い企業や業界の選び方など就活に直接役立つ知識も学びました。



山中 俊輝さん（4年生）

現代経済学 — 価格分析の理論 —
J.M.ヘンダーソン、R.E.クォント 著（創文社）

初版は1973年。数学を用いて経済学を表現しており、ミクロ経済学を学ぶ学生にもおすすめです。理解しにくいところもあるかもしれませんが、今改めて読んでも学びがあります。大学時代にこの本に出会い、研究者を目指すきっかけとなった原点のような一冊です。



棚橋 美桜さん（2年生）

学生の声

財政制度の現状と問題点について体系的に学ぶため、社会的インフラなどの公共支出論、消費税や所得税などの租税論、国の借金についての公債論といった基礎的知識を深める講義です。財政学は難しそうなイメージでしたが、先生が身近な例を挙げてくださるので理解しやすく、考察を深めることができます。





現在の水環境を理解し 未来の環境を考える

張 昇平 教授 *Prof. Shengping Zhang*

水環境とまちづくり
3年次後期配当科目／専門部門（地域計画科目群）

これからの時代にふさわしい、環境倫理

— この講義は、どのような内容でしょうか。

水環境とは、水量、水質、水生生物、水辺空間などの要素から構成されています。私たちが日々恩恵を受けているこの「水環境」には、人間の活動が大きな影響を与えています。そして、その影響の与え方には、社会の仕組みが大きく関係しています。本講義は、**環境・人間・社会が相互に作用しあった結果として、現在の都市水環境が形成されていることと、その現状を知る**ことから始まります。人間と水環境との関わり方を改善するための対策、そしてその対策の計画・評価に必要な理論と技術にまで学びを深めます。環境は自然の遺産であり、未来からの借りものだ、とよく言われますが、我々一人ひとりの小さな行動と、社会の仕組みによって変えられるものでもあります。環境に対するものの見方を身につけ、水環境への理解を深めたうえで、**「自分に何ができるかを考える」**力を身につけることを目的とした講義です。

— 講義を通して、学生にはどのような学びを得てほしいですか。
個別の知識や技法を暗記することよりも、もっと根本的な環境に対する考え方や、**21世紀に相応しい環境倫理の礎を身**

につけてもらいたいですね。倫理観の確立が、個人の意思決定に大きく影響してきます。社会に出てから何か環境問題に触れる機会があったときに、私の話や紹介した事例などを思い出してもらえるような記憶の引き出しのひとつになれば、と思って講義をしています。思い出すことができれば、そこから勉強し直すことができるからです。もうひとつ、私が伝えたいことは、**私たちの健康やQOLに多大な影響を与えている水環境に対して「無関心」でいることへの危機感です。現状を知り、まずは関心を持つことが、持続可能な未来へつながっていくのではない**でしょうか。

青春を謳歌しながら、自分らしい4年間を

— この学部で、学生たちにどんな学生生活を送ってほしいですか。
大学は、社会人になるためのモラトリアムです。大学の4年間を利用して、都市という切り口で自分なりに社会を理解し、社会における個人の役割や可能性について深く考える時間にしてください。**社会人としての能力を身につけると同時に、人生の目標を見つけてほしい**ですね。もちろん、青春を存分に謳歌することも忘れずに。

学生の声 /

水が汚れる原因や汚染物質を追跡する方法を学び、水域に流入した物質の変化過程には、物理学的・生物学的・化学的プロセスなどさまざまなものがあること、私たちの飲み水の安全性が脅かされることも知りました。張先生の解説はとてもわかりやすく、私たちの生活と重ねながら理解できています。

岩田 奈々さん(3年生)



環境の価値を学び、 未来を創造する一歩を

大野 栄治 教授 *Prof. Ohno Eiichi*

環境の評価※
2年次前期配当科目／専門部門（開発・環境科目群）
※ 2021年度旧カリキュラム

環境の「価値」を知り、考え方を身につける

— 「環境の評価」は、どんなことを学ぶ講義ですか？

講義の冒頭には「価格」と「価値」について話します。「価格」は原価などから算出されたモノですが、「価値」は時と場合によって、また人それぞれ異なるモノです。価格がついていて市場で取引されるモノばかりに価値があるわけではありません。たとえば、無料で提供されているモノの代表に「環境」があります。「環境」の価格はゼロですが、価値は存在しています。この講義では、環境は市場で取引されない「非市場財」であること、そういった非市場財にも価値があることを解説し、環境の価値を評価しなければならない現在の社会的背景を説明します。そこから、**地球環境問題に対応した環境保全事業や環境改善事業の効果を評価するための方法を、できるだけわかりやすく事例も交えながら解説**しています。

環境の価値を計測する方法として、旅行費用法、ヘドニック価格法、CVM（仮想市場評価法）、コンジョイント分析、離散選択分析、環境経済評価手法などがあります。手法や方法論を取り上げながら、環境の評価の考え方や適用例を紹介しています。**これらの学びを通して、学生たちには問題を発掘する力を身につけてほしい**と思っています。身近なことに疑問を持ち、そこに課題を見つけ、問題の解決策を提案することを経験してほしいです。

ものごとを多面的に見つめ、評価する力

— この講義を通して、学生に期待することは？

環境には「価格はないが、価値がある」ことを理解し、環境保全や環境改善の取り組みに興味を持ってほしいですね。環境の価値には、自分が直接感じる「直接利用価値」や、将来利用する可能性が保証されることによって感じる「随意価値」のほか、代位価値、遺贈価値、存在価値といった6種が存在します。それぞれの価値を理解することで、**一面的ではなく多面的にモノの価値を見る力をつけることができる**と思っています。学生から飛んでくる素朴な疑問には、問題の本質が隠れていることも多々あります。学生たちからの疑問・質問や、学説への反論を大いに期待しつつ、私も学生と共に、互いに学びを深めていきたいと思いながら、講義を進めています。

— 都市情報学部では、どんなことを学んでほしいですか。

まず既存の学説をしっかりと理解し、その学説を都市問題へ適用する力、問題を解決するための策を提案する力をつけてほしいです。都市問題に限らず**「自分の身の回りの問題を解決するためにはどうすればいいか？」**について、さまざまな知見を応用しながら、自ら解決策を見つけられる力をつけてほしいと願っています。

学生の声 /

この講義では、CVMなどの理論だけでなく、具体的な事例まで学ぶことができます。事例を知ることによって身近に感じるだけでなく、記憶への定着もしやすかったです。大野先生は、学生の質問にとっても丁寧に答えてくださいます。積極的な学生に対して、親切に手を差し伸べてくれる先生だと思います。

中川 雅新さん(3年生)





水俣病

原田 正純 著(岩波新書)

水俣病は「教科書で見た過去の事故」と思われがちですが、今も多くの人が苦しんでいます。当時の社会構造、被害が拡大した背景、救済が遅れた原因構造などが今の日本にはまだ残っており、水俣病ではない新たな水環境災害がいつ起きてもおかしくない状況です。貴重な教訓に満ちたこの一冊に、命を守るヒントが隠されています。



学生におすすめの一冊



環境経済評価の実務

大野 栄治 編著(勁草書房)

環境経済評価のさまざまな手法について、理論や適用方法を解説している本で、この講義のテキストになっています。書いたのは随分前なので、今は「ボランティアの経済学」を加筆したいと思っています。ボランティアというのは、対象への価値を感じることで自らの時間や能力を使いたいと思うものです。



学生におすすめの一冊



確率論とその考え方を通して 問題解決力を身につける

宇野 隆 教授 *Prof. Uno Takashi*

データ分析と確率
2年次前期配当科目／専門部門(情報数理科目群)

身の回りに確率モデルを見つけ、活用する力

— この講義は、具体的にどのような内容ですか。

講義では「微分・積分」や「確率」を扱います。まず、改めて関数や、微分・積分を俯瞰し、基礎概念を定着させるところからはじめます。次にデータ分析の方法として回帰分析とその仕組みを理解し確率の概念まで拡張します。これらの考え方は、データを科学的に見るのに必要で、使いこなすために、数学とコンピュータの結びつきに触れながら講義をしています。中学や高校で「サイコロを振って6の目が出る確率」といった簡単な確率に触れてきたと思います。さらに精査していくと、確率で考えられるモデルは「超幾何分布」「ポアソン分布」をはじめとする多くの分布に細分化されていきます。それらを学ぶことを通して、ものごとを理解してラベリングし、筋道を立てて考える力、身の回りにある確率モデルを見つけて活用する力を身につけてほしいと考えています。

— 確率を学ぶことで身につく力とは、どんなことがありますか。

確率は、さまざまな場面で活用されています。たとえば品質管理の現場で「100 個生産する時に 10 個の不良品が出る。このとき、いつもの確率と違う。」という発見から機械の不良を発見できることがありますよね。こうした確率論的な考え方、もの

ごとの結びつきの話などにも触れて、確率論による解決策を探っていきます。確率自体を学ぶことも大切ですが、複雑な問題解決のために論理的展開ができる考え方を身につけてほしいですね。人生で何か問題や課題に直面したとき、自らの知識や経験の引き出しをたくさん開けて解決していく能力が求められます。そのひとつに確率論による解決を自分の中にインストールしておくことに、学びの意味があると考えます。

必然性のある、チェーンストーリーとして

— 講義を進めるうえで、先生が特に大切にされていることは？

確率を学ぶためには、微分・積分を深く理解する必要があります。講義では都度知識や技能を補いつつ進めていますが、単に知識や技能の修得より、必然性のあるチェーンストーリーを伝えることを大切にしています。微分・積分などは、高校まではそれぞれに独立した定義として習ったと思います。高校の先生はきっと、その先の学びや展開を見据えて教えてくれていたと思います。私はその高校の先生の想いを継いで、大学生になった学生たちが「今まで学んだことが役に立つんだ」と実感してもらえる伝え方ができたら理想ですね。都市情報学部では理系から文系まで幅広く普遍的な知識とスキルを学ぶことができます。ぜひ将来への選択肢を増やしてください。



情報社会を生き抜く 武器を携えよう

水野 隆文 教授 *Prof. Mizuno Takafumi*

プログラミング入門
1年次後期配当科目／教養教育部門(情報技術)

プログラミングの前に学ぶ入門編

— この「プログラミング入門」は、どのような講義ですか。

プログラミングを始めたい人に向けた基礎的知識を広く学ぶ講義です。情報技術を扱う職を目指す人、システムの設計やマネジメントで活躍したい人が知っておくべき、基本的知識を身につけるための入門的な内容です。ですので講義名に「プログラミング」とありますが、実際にプログラミングを実施してもらうことは想定していません。手を動かす前にまずこの講義で、知っておくべき基本的な知識や前提情報をしっかりインプットした上で、プログラミングを学び、実際に書いていく、その土台をつくることを目的としています。

講義の前半は、プログラムがどのように開発・運用され、保守されているかを解説します。講義の後半には、表計算・アセンブラ・pythonといったプログラミング言語とその開発環境について、それぞれの特徴や違いについて解説します。プロジェクト管理の理解も深めていきますので、情報系に就職したいと考えている人はもちろん、それ以外の学生も、これからの時代を生きていくのに必要な基礎的な考え方を学んでもらいたいと思っています。また、この講義は「基本情報技術者試験」の受験を目指す人の受験対策にもなっていますので、ぜひ試験にも

挑戦してほしいです。

— 「基本情報技術者試験」とは、どのようなものですか。

「基本情報技術者試験」は、情報系の会社に就職すると高確率で受験を勧められる、とてもメジャーな国家試験です。試験時間は長いですが全て選択問題なので、解答のハードルは低めです。就職先の業界にかかわらず、在学中に受験しておくことをおすすめします。欲を言えば「応用情報技術者試験」にもチャレンジしてほしいですね。難易度は上がりますが、情報系企業への就活がきっと有利になるはずです。

情報・数学・経済を学び深めてほしい

— 学生には都市情報学部で、どんな学びを深めてほしいですか。

私たちは今、数学に価値を担保される「情報」という不思議な商品が社会に大きく存在する、新しい時代を生きています。これからの時代を切り拓く学生みなさんには「情報」「数学」「経済」を特に意識して学んでいただきたいです。これらは、都市情報学部だからとか、就職先がそれらに関係する業界だとか、そういうことに関係なく、これから大きく変革していく未来を生きたるためにとても重要な学問だと思っています。

あたらしい確率入門
羽鳥 裕久 著(牧野書店)

高校で数学を学んだことを前提とした入門書で、これから大学で確率論を学ぶ人にぴったりです。「これくらいはわかるでしょ」というアバウトな入門書が多い中、羽鳥先生の本はとても親切。とても几帳面な方なので、ひとつずつステップを踏んだ丁寧な解説で読みやすいです。数式の海に溺れずに確実に理解できる一冊です。

学生の声

最初は初めて聞くことが多くて難しいと思っていましたが、実は高校で習ってきた数学や身近な計算も多く見つけることができ、今はとても興味深いです。宇野先生は、講義後もわかるまで根気よく丁寧に教えてくれます。学生の理解度を確認しながら、さまざまな工夫をしてくださる先生だと思います。

木全 悠歌さん(2年生)

人月の神話【新装版】
Frederick Phillips Brooks, Jr. 著(丸善出版)

ソフトウェア工学とソフトウェアプロジェクト管理についての名著。多くの大規模プログラム開発プロジェクトが「失敗する理由」が書かれているエッセイ集で、プログラマーの必読本です。初版は1970年代ですが、今の時代にも通ずることばかり。大規模プログラム開発の困難さが、50年間変わっていないことがわかると思います。

学生の声

基本情報技術者試験の基礎知識が身につくと聞き、受講しました。これからの時代に必要な情報処理知識や経営知識について学べます。企業のマネジメントに関する内容は、社会に出たときに役立ちそうだと感じました。講義の最後に基本情報技術者試験の過去問が配布されるので、記憶の定着に役立っています。

佐郷 幸多さん(1年生)

都市情報学部の ゼミナール選び

多彩な学問が学べる都市情報学部。個性的なゼミナールは特長のひとつです。
先輩はどのようにゼミを選んでいるのでしょうか。ゼミ選びのヒントを紐解きます。



都市情報学部
亀井 栄治 教授

都市情報学部の学部長。
亀井ゼミのテーマは「景観・環境デザイン」。

大野ゼミナール生 3年
宮原 巧岬 さん

まちづくりや地域創生に興味があり、ゼミで「プロジェクト評価」を究める。

2年
間瀬 康介 さん

情報や経営の分野に興味はあるものの、希望ゼミはまだ決まっていない。

2年間、少人数制で 専門性を深めるゼミ

— お二人が都市情報学部を選んだ理由について教えてください。

宮原 まちづくりや地方創生に興味があり、情報技術を用いてまちづくりを学ぶ学部と知って志望しました。

間瀬 僕は情報や経営に興味があり、その両方を学べる学部だったこと、いろいろな学問を学びながら進む道を決めたいと思って入学しました。

— 文理融合の都市情報学部には、さまざまなジャンルのゼミがあります。亀井先生、学部のゼミの特色について、教えてください。

亀井 都市情報学部は3・4年の2年間、同じゼミで専門分野について

学び、究めます。大学によってはゼミは4年生の1年間だけというところもありますので、都市情報学部はゼミの位置付けがとても重い学部だと思います。当然ゼミは必修科目で、原則1週間2コマ(1コマ90分×2)もの時間を費やします。2年間もの長い期間で、より学びが深まると思います。

— 専門性を深めるために、ゼミが重要視されているんですね。

亀井 文理融合の学部ですので、ゼミの数だけ専門分野があると言っても過言ではないほど幅広いですね。たとえば法学部だと法学の中の細かい区分けですが、都市情報学部はゼミのバリエーションがかなり豊富な学部です。

宮原 確かに選ぶときも本当に多様なジャンルを絞り込むのも大変でした。

亀井 ゼミの数だけ学べる専門分野

先輩たちは、
どうやって選んでる?

があるのが、この学部の特色ですね。

興味のある分野を 改めて考えてみよう

— 宮原さんは、どのようにゼミを決めましたか。

宮原 2年生の12月にゼミ説明会に参加し、その時期から少しずつ考え始めました。同じ分野に興味がある友人と相談しながら分野を絞っていくと自然と大野先生のゼミが挙がり、ほぼ一択で志望しました。

どの分野で
絞っていこうか
まだ迷っています

2年
間瀬 康介 さん

ゼミごとに
ゼミ室の雰囲気も
全然ちがいますよ。

3年
宮原 巧岬 さん

宮原 間瀬さんは今気になるゼミはありますか？

間瀬 もともと情報と経営に興味があってこの学部に入ったので、それらのゼミが気になっているのですが、逆にまちづくりにも興味が湧いてきたので、まちづくりの専門の先生の元で学ぶのも面白そうだと思います。まだ決めかねています。

亀井 基本的には興味を持てる分野を選ぶのが一番ですね。私がいつも学生に伝えているのは「高校時代の理系・文系の区分は一旦リセットして」ということ。高校というのは科目で分類しているだけなので、それに固執する必要はありません。「自分は理系だったから理系のゼミ」と端的に決めるのではなく、一度全体を見て改めてどの分野に意欲が湧くか、どのゼミが自分にとって魅力的か、学びたいと思うか、という視点で選んでほしいです。



座学だけでなくフィールドワークなど内容も様々

都市情報学部に在籍する学生は文系・理系関係なく幅広いので、先生方もその辺りは考慮・工夫してゼミ活動を進めてくださると思います。理系のゼミだからといって絶対に数学ができないとダメとか、理系が得意な学生ばかりに寄った指導になることはないと思います。内容によっては「どうしても数学を避けては通れない」というゼミもあるので、そのあたりは個別で確認していただくのが良いかと思います。

— 宮原さんは現在、大野ゼミでどんなことを学んでいるのですか。

宮原 大野ゼミのテーマは「プロジェクト評価」です。私は社会資本整備に興味があるのでニア中央新幹線の整備によってどんな影響が起きるのか、それによって地方が創生されるのかなどを学んでいます。少人数制でグループワークやフィールドワークが頻繁にありとても充実しています。

— ゼミに入って、身についたことや変わったことなどありましたか。

宮原 PowerPointを使ってみんなの前でプレゼンをするという経験はゼミに入ってから身につきました。プレゼンや発表のためにわかりやすく効果的なPowerPointを作成する機会はあまりなかったので、これは卒業して社会に出てからも役立つ知識・経験だと思います。

ゼミ室を見学して 活動の雰囲気を知る

間瀬 ゼミの雰囲気が知りたいですが、入ってみるまでわからなくて。

宮原 中には、ゼミ室見学を開催しているゼミもあるので、気になるゼミがあればぜひそういう機会を活用して実際の活動の場を見学すると良いと思います。分野やテーマもそうですが、雰囲気が自分と合うかどうかは結構大事なポイントだと思います。

亀井 見学するのはおすすめです。とはいえ、ゼミというのは事前に調べられることには限りがあって、配属さ



実際のゼミの様子。テーブルを囲んで意見をだしあうことも

れないと実際の雰囲気はわかりにくいもの。でも実はこれ、就職先選びと一緒になんです。就活時にもその業界にどんな会社があって、自分がどの会社に向くのか？自分がどんな仕事をしたいか？というのを軸に悩むと思います。その中から自分で決断をして志望し、就職先から内定をもらい配属されます。まさにゼミと同じ。この経験は、社会に出てからの大事な選択の予行練習にもなると思います。

ゼミ選びは、
就職先選びの
予行練習！

亀井 栄治 教授

宮原 ゼミごとにテーマはもちろん、雰囲気も全然違うので入る前にそれを見極めるのは難しいと思いますが、実際に見聞きしてわかることもあると思うので、まずは気軽に先生や先輩に聞いてみたり、ゼミ室見学に行ってみると良いと思います。

ゼミ選びのポイントまとめ

☑ **興味がある分野をフラットに考えよう！**
理系・文系などの思い込みは一旦リセット！

☑ **説明会で全体像を把握しよう！**
冬に開催される説明会で各ゼミの内容を把握

☑ **将来の進路も見据えて選択を！**
進路が決まっている人は同分野を選ぶのも◎

☑ **ゼミ室を見学してみよう！**
先生へアポをとって、実際の様子を見学しよう

How do you
choose?

個性豊かな 27 のゼミナール

学生は3年次から、関心のあるテーマのゼミナールに入ります。教授が専門とする学問や特定のテーマについて研究や討論を重ねるゼミ。教授の指導のもと、少人数制で主体的・能動的に学びを深めます。ここでは、都市情報学部個性豊かな27のゼミナールを紹介します。

PIC UP SEMINAR

経済・経営

雑賀ゼミナール

いい企業の研究

「良い企業」の「良い」とは何を意味するのでしょうか。経営や利益が良いのか、人材が良いのか、安定性や知名度が良いのか。業界研究、企業研究を行うことで、優れた企業を発見し、世の中の仕組みを深く研究し追求。副次的に就職活動につながります。就職対策のための自己PRなどの書き方も徹底的に議論し、指導します。



雑賀 憲彦 教授

経済・経営

島田ゼミナール

会計情報と企業経営

企業は様々な利害関係者へ経営状態を開示伝達する責任があります。その会計責任において開示伝達されるのが、企業の会計情報です。経営状態を知るだけでなく、経営のあり方が企業業績にどう反映されているかを分析できます。島田ゼミでは、実際の企業の会計情報を分析することで会計の重要性について理解します。



島田 康人 教授

経済・経営

杉浦(真一郎)ゼミナール

人文地理学

日本の大都市圏/地方圏、大都市/中小都市/農山村における社会的・経済的活動を、地域差や地域間の結びつきといった地理的視点から捉えます。公的統計はもちろん、自身でのアンケートや現地調査を通じて得られた様々なデータから、地域の実情について把握・分析・表現(地図化・図表化・文章化)する方法を学びます。



杉浦 真一郎 教授

経済・経営

鈴木(淳生)ゼミナール

身のまわりの都市問題を数理モデルにより解析する

身のまわりの都市に関するデータを収集・分析し現状を把握し、問題を明らかにします。それらの問題を、数学を用いてモデル化して解くことが目的です。①関心のあるテーマを見つける、②研究をおこなう、③卒業論文を作成する。現実のデータから現状を分析し、都市問題の解決をはかることの重要性を身につけます。



鈴木 淳生 教授

財政・行政

赤木ゼミナール

政府や地方自治体の経済活動

政府や地方自治体の財政制度の現状と問題点、その基礎となる理論を理解し、今日的な政策を考察します。そのために、社会的インフラなどの公共支出論、消費税や所得税などの租税論、国の借金については公債論を読み解きます。都道府県や市町村の役割などの地方財政論等を、制度と理論の両面から学習し、理解を深めます。



赤木 博文 教授

財政・行政

鎌田ゼミナール

社会保障と社会福祉

人は、市場経済という競争原理の中で生涯を生きていかなければなりません。その中で「自分らしく生きる」「生き甲斐を感じる人生を送る」社会の仕組みを考える必要があります。生き甲斐を考えることは、心の視点から物事をとらえること。ふと不安になったり、困難から逃げてしまったりする理由が分かるようになります。



鎌田 繁則 教授

経済・経営

宮本ゼミナール

地域経済学

ゼミではまず、各地方自治体が抱える問題を発見し、問題に対してどのような政策を行なっているか理解します。次に、その政策が適切かどうかを、データを分析することで判断します。最後に、政策の改善点を提案します。根拠を持って自分の意見を主張する力を身につけるとともに、政策を実施する難しさを理解します。



宮本 由紀 教授

財政・行政

稲葉ゼミナール

国際関係論

世界中の都市を学び、歩き、言語・文化・社会を学び、都市・地域・国家を理解するゼミです。文献を何冊も読むことで、世界中の都市や、日本との関係などを紐解きます。外国を学ぶことで日本をより深く理解し、外国との架け橋になることができます。ヨーロッパやアメリカ、オセアニア等へ、毎年数名が留学しています。



稲葉 千晴 教授

財政・行政

手嶋ゼミナール

公共政策の観点から都市問題を解決する

都市や地域の諸課題を公共的視点から捉え、解決する手法・方策を探求します。心豊かに安心して暮らせる社会の実現には、国や地方自治体の活動が不可欠であり、多くの人々が納得できる公共部門の諸制度のあり方が問われます。公平・公正で効率的な制度のあり方を理論的に検討するとともに、実現可能な政策案を考えます。



手嶋 正章 教授

地方自治・まちづくり

地方自治の仕組み・構造等を、理論と具体例の双方から探ります。地方自治の仕組みとまちづくりの関係を知ることで「市民主体のまちづくり」をどうやって実現するのか、福祉やまちづくり系のNPO団体で一日体験をして学びます。これまでのOB・OGは県警察や市町村職員、消防署、NPO団体などに就職し、力を発揮しています。



昇 秀樹 教授

都市水利用計画

多くの都市で水道水にトリハロメタンという発がん性物質が検出され、飲用水の安全性が懸念されています。このゼミでは、安全な水を安定的に利用できる都市水環境の構築を目指し、数理解析、人工知能等の情報処理技術を駆使して、飲み水の安全性、平常時・非常時の用水確保、水災害に強いまちづくりを追求します。



張 昇平 教授

身体環境共生学

フィールドを通して、地域生態学や環境社会学を学びます。環境文化を活かしたまちづくりは、将来、持続可能な社会の形成に繋がります。「教師に頼らない」「Webの情報は疑う」「自ら考え行動する」が、小池ゼミのモットー。Sense of Wonderの心を持ち続け、頭で理解する前に、身体で環境を感じる事が大切です。



小池 聡 教授

21世紀の都市像の理解と計画論

2050年頃までの社会の潮流を読み解き、求められる都市像やあるべき計画論を発想し、実現する方策を考究します。①少子高齢化・人口減少 ②情報化社会 ③グローバル化 ④環境意識の高まり ⑤地方分権化・市民社会に着目。メガトレンドの理解のもとで「あるべきもの」「求められるもの」を発想する力を養います。



福島 茂 教授

交通工学・交通計画

交通の現象や性質、人間の行動特性を正しく理解するのが交通工学です。交通工学の知見を生かして効率的な都市交通政策を策定するのが交通計画です。国土計画・地域計画と交通システムを同時に考える学問が「交通工学・交通計画」です。ゼミでは交通現象の理解、課題の抽出、都市問題の解決法という手順で卒論等を進めます。



若林 拓 教授

建築教育・都市環境教育

建築・都市・まちの教育をテーマに、リアルとバーチャル、ローカルとグローバル、専門家と市民・子ども等さまざまな領域を横断し、新しい学びをひらく実験室です。キャンパスやまちなかでの活動を通して、自ら考え実行するプロジェクト・デザインの力と、創造的な学びの場をつくるワークショップ・デザインの力を養います。



田口 純子 准教授

Think Globally, Act Locally

「地球温暖化問題」を筆頭とするグローバルな環境問題を背景として、地域・都市における交通や防災、インフラ整備のありかた、観光やICTなど経済活性化の立案、エネルギーの安定供給と地方の自然環境保全の両立などを考えます。森杉ゼミの研究方向性を定めるうえで「Think Globally, Act Locally」は重要な道標です。



森杉 雅史 教授

Web Programming

Amazonや楽天のようなネットモールの仕組みを学び、オリジナルWebシステムを開発するゼミです。Javaプログラミングによる業務系Webシステム、e-Learningなどの教育系Webシステムの開発技法、Windowsアプリケーション開発技法などを習得します。プログラミング能力とシステム構築力を身につけるゼミです。



宇野 隆 教授

観光学・観光動態

「観光立国」を目指す日本。世界遺産等、国内外に誇れる観光資源が増える一方で、COVID-19の逆風や地球温暖化、縮減社会などの課題も抱え、観光を取り巻く環境は楽観視できない状況です。このゼミでは既存の統計資料や現地調査によるデータを分析しながら、観光を活用した長期的かつ持続的な社会のあり方を考究します。



森 龍太 助教

プロジェクト評価

環境問題をはじめとする都市問題を取り上げ、問題の発見、情報の収集・分析、解決策の提案・評価、成果の発表までを遂行する分析能力とプレゼンテーション能力を習得します。環境政策(カーボン・ニュートラル事業等)、観光政策(オーバー・ツーリズム対策等)、社会資本整備(リニア中央新幹線整備等)の討論も行います。



大野 栄治 教授

景観・環境デザイン

都市計画の分野のひとつ「景観・環境デザイン」を研究します。景観とは、環境に対する視覚からの評価です。私たちの生活はすべて環境のもとに営まれ、視覚は環境の影響を大きく受けます。だからこそ、環境を美しく豊かにすることは非常に大切なことです。「心を育む栄養素」は景観として目から摂取されているのです。



亀井 栄治 教授

医療安全をICTで社会貢献するゼミ

医療や介護で発生する様々な問題を、アンケート調査等により情報収集し、データを分析して問題解決のための改善提言を考えます。医療や介護保健の知識習得と社会人基礎力を養成するため、厚生労働白書をベースにプレゼンや、ディベートなどのアクティブ・ラーニングを通して、卒業研究テーマの課題を検討します。



酒井 順哉 教授

人間行動データの収集・分析・評価

音や画像を対象に、行動に伴って発生する情報や信号の解析・処理技術を学びます。テーマは数学、デジタル信号処理、物理、電気工学、生理学、聴覚、心理、Web技術など多分野。社会を支える情報基盤技術を学び、問題解決のための論理的思考力を獲得することで、問題設定や解決策の提案、実行ができる人を目指します。



西野 隆典 教授

応用数学

世の中の様々な問題を、数学と情報技術を利用して解決するための理論と方法について研究します。問題を解くための情報もなく、答えが見つからないケースでも探究していきます。数学的手法を学び、身近な疑問やシステムに対して数学的アプローチを行うことで、この理論と方法が、将来問題解決をする際に役立つはずです。



山谷 克 教授

知能情報処理

身の回りの諸問題を定義して数理モデルという抽象的な構造物として再定義し、これら进行分析する力を身につけます。同時に、モデルと現実との違いを認識し、理論や技術と社会との関係について考える力を養います。数理モデルや技術系の文章の書き方はもちろん、C言語やその他のプログラミングについても学びます。



水野 隆文 教授

数理計画学
Operations Research

都市の様々な問題・テーマを、数理とモデルという視点、数理計画学、ORなどの手法を用いて考察し、卒業研究の完成を目指します。ゼミ活動や卒業研究を通して、都市や社会に関して自らの問題意識をもとに情報の収集・調査・分析・評価を身に付け、論理的に考察して問題を解決するための姿勢・能力を培います。



杉浦 伸 准教授

音・音声の分析・評価

身の回りにある音や、人の声である「音声」を対象に研究しています。興味のあることをテーマとし、課題に自主的に取り組むことを目的としています。研究には、音響学の知識やMATLABのスキルが必要になります。これらはこれまで習ったことがない分野なので、自主的に知識やスキルを習得する姿勢が重要です。



鈴木 千文 助教

地域システム計画

地域づくりに必須である【課題設定→データ収集・社会調査→データ分析→政策立案】の一連を習得することを目指しています。特に、実際の社会と乖離した議論とならないように、実地域を対象に、「様々な手法を用いてデータを処理/分析して、有用な情報(価値)を引き出す」ことを大切にしています。



大野 沙知子 助教

2022年度 専任教員の専門分野と主な研究テーマ

	教授名	専門分野	研究テーマ
経済・経営	雑賀 憲彦 教授	経営戦略・人事戦略・マーケティング戦略	企業や自治体の経営課題の抽出と経営戦略の立案 企業や自治体の人事賃金制度の分析、評価の賃金システムの改善策立案 企業や自治体のマーケティング課題の抽出とマーケティング戦略の立案
	島田 康人 教授	管理会計・経営分析	顧客別収益性分析の進展、情報化と企業間関係の変化
	杉浦 真一郎 教授	人文地理学	地方行財政に関する地理学的研究
	鈴木 淳生 教授	数理ファイナンス・金融工学・オペレーションズ・リサーチ	デリバティブの価格付け、都市のOR
	宮本 由紀 教授	地方財政・都市経済学	子育て支援政策に関する実証分析
財政・行政	赤木 博文 教授	財政学・公共経済学	社会資本形成に関する理論的および実証分析、税制のあり方
	稲葉 千晴 教授	国際関係論・国際政治史	国際政治史、日露関係史、北欧現代政治、情報と国際通信
	鎌田 繁則 教授	社会保障論	生活者のための社会保障
	手嶋 正章 教授	公共政策学・経済政策学	地域情報化政策に関する研究、地域政策とまちづくり、財政問題と政策論
	昇 秀樹 教授	行政学・行政法・政治学・地方自治論 等	地方分権の課題と展望、まちづくりの手法、自治体の政策形成、地方自治法解説、地方公務員法逐条解説
地域計画	柄谷 友香 教授	都市防災計画・リスクコミュニケーション	防災・減災社会の実現に向けたひと・まちづくり 広域巨大災害からの被災地の復旧・復興プロセスの解明
	張 昇平 教授	都市水文学・水利用計画	水資源開発計画と水資源管理、都市水環境システムの解析および制御、 渇水と水供給の安定化
	若林 拓 教授	交通工学・交通計画	交通システムの信頼性向上に関する研究、災害時の交通計画、道路案内標識の経路誘導効果の評価
	田口 純子 准教授	建築教育・都市環境教育	建築・都市・まちに関する創造的学習、生涯学習(子ども教育、市民教育) プロジェクトデザイン、ワークショップデザイン
	森 龍太 助教	観光学・観光動態・環境経済評価	観光資源の保全と開発 観光価値(レクリエーション価値)の計測・評価手法の開発 温暖化による観光地への影響と対策の検討・評価手法の開発
開発・環境	大野 栄治 教授	土木計画学・プロジェクト評価	公共事業の費用便益分析、環境政策・観光政策の経済評価
	小池 聡 教授	農村計画学	農村地域政策の分析と評価
	福島 茂 教授	都市計画・地域計画・住宅政策	社会経済環境の変容に対する都市計画・居住政策のあり方／グローバル経済における地域開発戦略、産業立地をめぐる国際地域間競争／持続可能な地域づくり：Learning Region アプローチとコミュニティエンバウメント
	森杉 雅史 教授	環境経済分析・土木計画学	地球温暖化の被害や適応策の経済学的評価 再エネ・交通・観光・文化と地域経済
	宇野 隆 教授	数学・確率論・情報科教育法	確率多項式に関する研究、従属確率変数の極限定理に関する研究
情報・数理	亀井 栄治 教授	景観計画・環境デザイン・都市計画	景観計画・環境デザインにおける分析・評価手法に関する研究
	酒井 順哉 教授	医療情報学・手術医学・医療機器安全工学	GS1標準バーコードによる医療機器本体直接表示推進方策とトレーサビリティ管理に関する研究／患者に役立つ医療事故再発防止のための4点認証システムの研究／在宅医療・介護のためのオンラインサービス技術導入に関する研究
	西野 隆典 教授	立体音響・音信号処理	三次元音響の収録と再生に関する研究 音声・音響信号を用いた人間と機械とのインタフェースに関する研究
	水野 隆文 教授	知能情報システム工学	スマートコントラクトを含むビジネスモデルの設計、フロントエンド環境で動作するルールベースシステムの開発、AIシステムの経済価値の評価、大規模データベースシステムの構築、複雑系ゲームマシンの解析、知識の単一化と一般化を行うアルゴリズムの開発、感性データの可視化
	山谷 克 教授	応用数学・数値計算	画像や音楽に含まれる幾何学的特長を用いた効率の良い情報削減方法の考案
情報・数理	杉浦 伸 准教授	オペレーションズ・リサーチ 応用数理	数理的意思決定に関する理論的研究 オペレーション・リサーチ、応用数理による都市問題の分析
	鈴木 千文 助教	音・音声信号処理	歌声の類似度評価に関する研究
	大野 沙知子 助教	土木計画学・地域計画	新たなモビリティの社会的形成に関する研究／地域協働型インフラ管理に関する研究／災害復興における支援のあり方に関する研究

大野 栄治

論文

Eiji OHNO, Ryuta MORI, Shin SUGIURA and Masafumi MORISUGI/Requirements for Establishing a Community-based Renewable Energy Project/Proceedings of the 61st European Congress of the Regional Science Association International/The European Regional Science Association (ERSA)/Vol.61/2022.8/pp.1-20/査読無

論文

阪本蘭・中島一憲・森龍太・坂本直樹・供田豪・大野栄治・森杉雅史/将来の社会経済変動を考慮した気候変動による砂浜侵食の経済評価/土木学会論文集G(環境)/土木学会/Vol.78, No.5/2022.8/pp.L_337-L_348/査読有

論文

杉浦伸・森龍太・大野栄治・森杉雅史/コンジョイント分析と階層分析を融合した事業案の優先順位付け手法の提案/地球環境シンポジウム講演集/土木学会/Vol.30/2022.8/pp.157-163/査読無

鎌田 繁則

著書

鎌田繁則(単著)/社会保障改革2025とその後/創成社/2022.4/ISBN:9784794432353 /284pp.

柄谷 友香

論文

Tokio Uchiyama, Keiko Kawashima, Satomi Suzuki and Yuka Karatani(2022), Psychological Impact on Affected Children in Fukushima, In Kenji Kamiya, Hitoshi Ohto, Masaharu Maeda(Eds.), Health Effects on the Fukushima Nuclear Disaster, (pp.195-215), Elsevier.

酒井 順哉

論文

酒井順哉/処方せん受付・調剤・監査システム導入の現状に関する調査研究/都市情報学研究/名城大学都市情報学部/No.27/2022年8月号/pp.3-17/査読有

論文

酒井順哉/サイバー攻撃対策に必要な二要素認証、VPN更新、多要素防衛の運用/月刊新医療/エム・イー振興協会/Vol.49, No.1/2023年1月号/74-78/査読無

著書

酒井順哉, 森田耕司, 河合敏博, 中田精三, 高階雅紀, 高倉照彦, 青木都香, 黒澤康雄, 村田昭夫(共著)/医療機器安全実践ガイド 医療情報編(第6版)/エム・イー振興協会/2022年9月15日/ISBN:978-4-901276-70-2/pp.15-241

島田 康人

著書

島田康人/公営ガス事業の事業者数減少についての考察/都市情報学研究/名城大学都市情報学部/第27号/令和4年7月/pp.29-33/査読無

張 昇平

論文

Shengping Zhang and Jie Qi/A SENSITIVITY ANALYSIS OF RIVER ENVIRONMENT FACTORS THROUGH DEEP LEARNING/International Journal of GEOMATE/The International society of geomate/Vol.23, Issue 97/Sept. 2022/pp.146-153/査読有

論文

Shengping Zhang and Jie Qi/EXAMINING WATER ENVIRONMENT DATA FOR AN ARTIFICIAL INTELLIGENCE EVALUATION MODEL/Proc. of the 8th Int. Conf. on Structure, Engineering & Environment/The International society of geomate/ISBN: 978-4-909106094 C3051/Nov., 2022/pp.478-483/査読有

西野 隆典

論文

Yuki Sakashita, Yoshio Ishiguro, Kento Ohtani, Takanori Nishino, and Kazuya Takeda/Methods of Gently Notifying Pedestrians of Approaching Objects when Listening to Music/Proc. The ACM Symposium on User Interface Software and Technology 2022(UIST2022)/Association for Computing Machinery/2022/4 pages/査読有

論文

野畑洗貴, 武田一哉, 石黒祥生, 西野隆典, 大谷健登/高頻度デジタルツインに向けた自由視点合成手法を用いた空間三次元再構築/第21回情報科学技術フォーラム(FIT2022)講演論文集/情報処理学会/2022/pp.237-240/査読無

昇 秀樹

論文

昇秀樹/2020年代を「住民自治的分権改革」の時代に/自治研究/ぎょうせい/98巻7号(通巻1181号)/2022年7月/14頁(78-91頁)/査読無

論文

倉井春樹・昇秀樹/地方の路面電車のBRT化に関する研究/都市情報学研究/名城大学都市情報学部/2022年/査読無

著書

仲江利政・村田哲夫・昇秀樹(共著)加除式本/Q&A地方公務員の個人責任/ぎょうせい/2022年10月/5頁(125-129頁)

福島 茂

論文

Montouch MAGLUMTONG, Shigeru FUKUSHIMA+C4:C5/Inclusive Development for Street Food Vendors in Modernizing Bangkok, Thailand: An Evaluation of the Street Food Program of the Government Savings Bank/Urban and Regional Planning Review/City Planning Institute of Japan/Vol.9/2022/pp.42-62/査読有

論文

Querida KHOTCHAREE, Shigeru FUKUSHIMA/Emergence of Peer-to-Peer Accommodation Sharing in Bangkok: The Case of Airbnb and Implications for Housing Market Distortion/Urban and Regional Planning Review/City Planning Institute of Japan/Vol.9/2022/pp.200-221/査読有

論文

Querida KHOTCHAREE, Shigeru FUKUSHIMA, Masafumi MORISUGI/Active-inactive status of Airbnb listings and hosts' decision to continue Airbnb/Proceedings of the 18th Conference of International Development and Urban Planning/AACPG - City Planning Institute of Japan/2022/pp.106-115/査読無

大野 沙知子

論文

大野沙知子, 金森亮, 森川高行/高齢者の外出支援について地域包括ケアシステムとの連携を目指した個別モビリティ・プランの実践/土木学会論文集D3/土木学会 /78巻6号/2022/pp. II_470-II_479/査読有

論文

大野 沙知子, 中村 俊之, 小池 春妙, 中山 典子, 戸田 友介/超小型EVを活用した高齢者の自助を支援する中山間地域実践的研究/土木学会論文集D3/土木学会/78巻 6号/2022/pp.II_592-II_602/査読有

鈴木 千文

論文

鈴木千文, 坂野秀樹, 旭 健作/歌唱音声におけるスペクトルの微細変動増減処理によるビブラート音声の作成と自然性の調査/日本音響学会/2022/pp.1293-1294/査読無

論文

鈴木千文, 坂野秀樹, 旭 健作/歌唱音声における自然性評価のための基本周波数とスペクトルの微細変動増減処理によるビブラート音声の作成/日本音響学会/2023/査読無

森 龍太

論文

末廣陽大・今重美優・末道綜士・楯下結月・樫本知毅・森龍太・中島一憲/パネルデータ分析を用いた兵庫県41市町のごみ排出量の要因分析/第65回土木計画学研究発表会・講演集/土木学会/2022/pp.1-9/査読無

論文

Eiji OHNO, Ryuta MORI, Shin SUGIURA and Masafumi MORISUGI/Requirements for Establishing a Community-based Renewable Energy Project/Proceedings of the 61st European Congress of the Regional Science Association International/The European Regional Science Association (ERSA)/2022/pp.1-20/査読無

論文

阪本蘭・中島一憲・森龍太・坂本直樹・供田豪・大野栄治・森杉雅史/将来の社会経済変動を考慮した気候変動による砂浜侵食の経済評価/土木学会論文集G(環境)/土木学会/Vol.78, No.5/2022/pp.L_337-L_348/査読有

ゼミナール			優秀卒業論文(令和4年度)		
ゼミナール	氏名	題目	ゼミナール	氏名	題目
雑賀 彦彦	山中 俊輝	Sler業界の現状分析と今後の展望	若林 拓	八瀬 海兵	電子料金収受システムが利用可能な有料道路における「0待ち」の現状と対策に関する研究
島田 康人	松尾 樹	カフェ事業における原価問題と経営の分析	田口 純子	今村 祥吾	ひとり親家庭の子どもたちが抱える問題一名古屋市の居場所づくり事業に着目してー
杉浦 真一郎	一岡 俊輔	名古屋市営地下鉄桜通線の延伸による地域の変容	大野 栄治	鬼頭 毅望	中央新幹線開業による愛知県内観光への影響
鈴木 淳生	松本 龍志	プロ野球12球団別本拠地における打撃分析	福島 茂	森本 大智	メタバースを活用した商業空間の現在地とその評価 REVWORLDSを事例として
宮本 由紀	川島 一十	ふるさと納税返礼率規制の影響	森杉 雅史	藤村 美友	北海道新幹線延伸が与える影響について
稲葉 千晴	安藤 桃花	日米安全保障条約の歴史と現状	酒井 順哉	伊藤 翼	生活習慣病予防における健康管理アプリの有用性と機能比較の研究
鎌田 繁則	目黒 裕人	働き方改革に関する研究	西野 隆典	手嶋 啓介	ひらめき問題解決に対するBGMの影響
手嶋 正章	青木 雄哉	新たな路面公共交通(SRT)の導入に関する考察	杉浦 伸	山中 季夕	日本における2021年度売上高上位30位の企業ロゴ色の相関調査
昇 秀樹	後藤 大知	プロ野球ファンが球場で観戦することに対して感じる魅力は何か	鈴木 千文	永瀬 彩乃	男性アイドルデュオ「KinKi Kids」の年代別比較で見る歌声の類似点と相違点についての分析
張 昇平	山中 崇雅	各国における海洋プラスチック問題への取組みと効果			

SEMINAR REPORT



「柳ヶ瀬のタイムカプセルが盗まれた!」謎解きまち歩きイベント

田口ゼミナールでは、今年も「やながせ こどものがっこう」に取り組みました。7月から商店街で活動する人たちと企画会議をスタートし、二転三転しながら内容をブラッシュアップしました。昨年は参加者集めに苦労したため、こどもたちが参加したくなる工夫として「謎解き」スタイルのまち歩きを考案、さらに「柳ヶ瀬 日常二ナール」というまち体験プログラムの一つとして開催しました。結果として、多くの親子が参加し、学生がサポートしながら一緒に商店街を巡り、まちの魅力に気づいてもらうことができました。学生たちもまちを見る新たな視点や商店街の奥深さを知ることができました。

参加した学生の感想

参加した子どもたちは、謎解きで巡ったお店や場所だけではなく、商店街にある様々な場所にも興味を示していました。中には、商店街のお気に入りのお店を教えてください、私たちが気づけなかった商店街の彫像に目を向けていたり、子どもならではの視点で商店街の新たな発見を教えてくださいのが印象的でした!

都市情報学部×商店街

「柳ヶ瀬のタイムカプセルが盗まれた!」謎解きまち歩きイベント



▲学生が手作りした謎解きブックを持ってこどもたちがまちをかげめぐります

▲お店の人に自分で声をかけて写真もバシャリ!



▲画材屋さんの秘密を聞き取り調査!画材のことも丁寧に教えてもらいました

▲ミッションの後は振り返り時間を設けて、未来に残したいものは何かなど考えます



「大曽根路上空間活用方法検討ワークショップ&社会実験」に福島ゼミ3年生が参加

福島ゼミナールの3年生とまちづくりサークル「Lプラネット」の有志が「大曽根路上空間活用方法検討ワークショップ&社会実験」に参加しました。これは、西山和寛さん(名城大学院生)と蟹江哲太郎さん(南山大学院生)が中心となって企画し、福島ゼミが共催して昨年から開催しています。今年のテーマは「Social Good な大曽根ストリートライフ」。12月11日から17日に、路上空間で3つのアクティビティを行い、参加学生自身・他者・地域社会の3者にとって良いストリートライフを構築することができました。

Voice

自分の趣味や特技を生かしたアクティビティを考えました。寒い中でも商店街・地域住民などの方々に楽しんでもらえて、市民による路上空間活用の可能性を共有することができました。こうしたストリート・アクティビティやアンケート調査を自ら企画・実践することで、座学では得られない貴重な経験を得て、自信にもつながりました!



▲OZONE STREET PARK(むかしあそびやボードゲーム等)



▲ストリートピアノ&書道体験



▲カクテルづくり体験



▲後日、路上空間活用WS&社会実験報告会を開催しました

路上空間活用のニーズや参加意欲を調査するアンケートも実施。地域のまちづくり団体の方々や名古屋市職員などを交えての、活動成果報告会では、街路空間が市民に開かれることの意義を活動主体と地域社会のそれぞれの立場から理解することができました。

一流の技術者を目指して。

誰からも信頼される、

卒業生の今

Voice of Meijo OB/OG

vol.5

大学4年間で
印象深かったこと

人々の暮らしを支える 航空会社の測量事業

現在、私は中日本航空株式会社の「調査測量事業本部」で、国や独立行政法人が管理するダムや河川の測量事業の技術者として働いています。具体的には、実際に現地に出向き、測量船に乗ってダム貯水池内の地形を測量する業務などに携わっています。弊社は、空から地表面や水面下の地形が測れる航空レーザ測量を得意としていますが、実際に現地に行かないと測量できない入り組んだ場所も数多くあり、空からの測量と地上や水上からの測量をあわせてデータ化しています。計測データを元に解析や計算を行い、ダム貯水池内の堆積量や貯水量を割り出し、過去のデータと比較し



て、上流からどれくらいの土砂が流れ込んできたのかを把握します。自然災害が多い日本は、ダムや河川の維持管理は非常に重要であり、その一端を担っている仕事に大きな使命とやりがいを感じています。



小さい頃から飛行機やヘリコプターが好きで、できれば航空に関わる仕事や飛行機に携わる仕事に就きたいと思っていました。また、学生時代に東日本大震災の被災地を訪問した経験から『災害時に活躍できる人になりたい』という思いもあり、中日本航空を志望しました。が、実際に飛行機に乗って航空測量を体験したところ、旅客機と違い小さな機体での激しい揺れに酔ってしまい…。飛行機は好きですが、私には地上部隊の方が合っているようです(笑)。

高木 透 さん

2020 年度卒業／雑賀ゼミナール
勤務先：中日本航空株式会社



中日本航空株式会社
物資輸送からドクターヘリまで展開する「航空事業」と、先端の調査・測量技術で社会貢献する「調査測量事業」から成る、総合航空会社。

都市情報学部での学びが 現在の業務の効率化に

都市情報学部を選んだ理由は、情報社会の今、情報に関するスキルを学生のうちに身につけておくことで将来の選択肢が広がると考えたからです。また都市情報学部は文理融合の学部で、幅広い学問を学ぶことができるのではといった期待もありました。



1・2年次の「コンピューター演習」で学んだ、Word や Excel、PowerPoint などは、今の仕事に活かしていますし、関数を用いた表計算などは業務の効率化に役立っています。3 年次からのゼミナールでは、企業経営を研究する雑賀ゼミに所属していました。会社訪問をして

インタビューをしたり、企業向けにプレゼンを行ったりと、学生時代から社会に関わる機会が多くありました。また、履歴書の書き方指導など就職活動も手厚くバックアップしていただきました。

過酷な現場に遭遇しても やりがいにつながる仕事

幅広く学べる都市情報学部でしたが測量については学ぶことなく就職したので、1 年目はすべてが勉強でした。測量の現場は遠方で長期の出張になることも多くあります。踏み間違えたら滑り落ちてしまうような崖の斜面での測量や、山を縦走するような測量コース、雪が降り続く真冬の川にウエットスーツで入っていったり、野生の熊と遭遇したり、と過酷な場面も多々あります。危険と隣り合わせの作業ではありますが、無事故で測量を終えられた時は「やり切った!」という達成感があります。

憧れの先輩を目指して 頼りにされる技術者に

今、私の部署には憧れの先輩がいます。

Voice /

航空会社の測量事業について知ることができました!

航空業界にとっても興味があり、今回の取材に同行させていただきました。航空会社という航空事業のイメージが強いですが、高木さんの所属する調査測量事業について深く知ることができ、とても興味深かったですし、いろいろな仕事があることを知りました。チームで一丸となり、協力してプロジェクトを動かしているところがとても印象的でした。

3 年 伊藤 誓秀さん



まちづくりや情報系はもちろん、経営や環境、興味のある観光も学べて充実の講義でした。

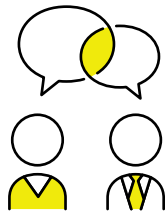


軟式野球部に所属しており、最後の大会で2部から1部に昇格することができました!



講義後に、友達とナゴヤドームへ寄ってドラゴンズを応援するのが密かな楽しみでした。

名城大学就職支援の特徴



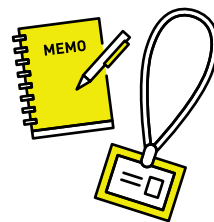
1 1～4年次までの個別指導担当制

学生一人ひとりが抱える悩みや就職意識は千差万別です。名城大学の就職支援は1年次からスタートし、内定を得るまでの4年間にわたって、担当制の個別指導・相談体制で、進路や就職の相談ができます。



2 進路支援講座【1・2年次対象】

1年次のキャリアガイダンス、2年次のプレ就職ガイダンスに加え、企業内で働く場を紹介・マッチングする「企業ではたらく博覧会」や「業界研究セミナー」を開催。早期のキャリア観醸成を目指します。



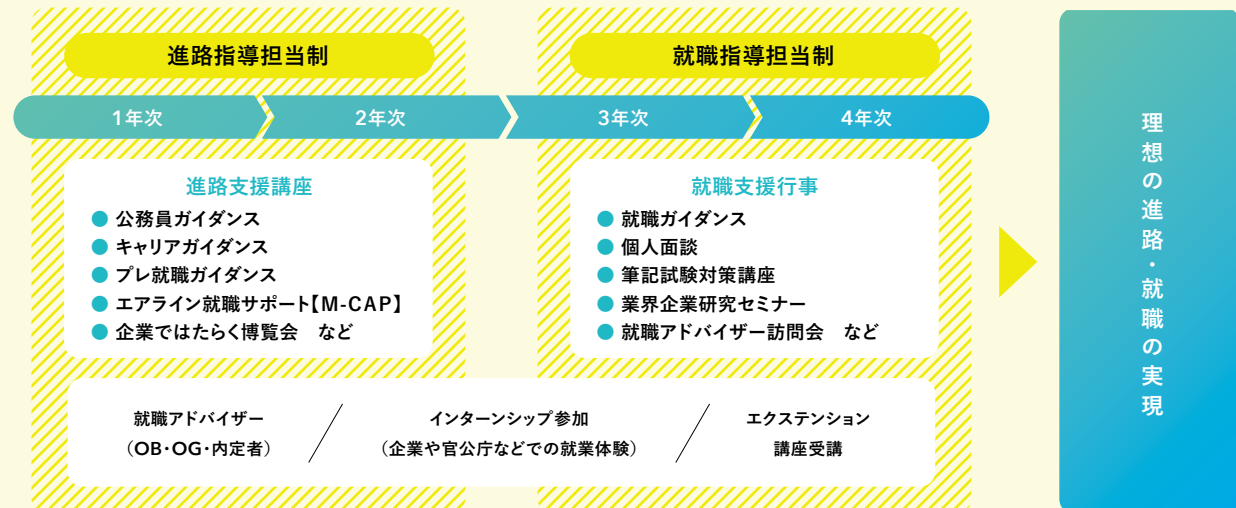
3 インターンシップ支援

大学に在学しながら企業等の就業体験ができ、就職活動前に労働観、職業観、社会観を養うための支援です。短期のインターンシップや選考突破セミナーなどのインターンシップ支援も充実しています。



4 就職支援行事【3・4年次対象】

就職ガイダンス、筆記試験、マナー・面接対策等の各種講座のほか、東海地区最大級の「学内業界研究セミナー」などを開催。大規模大学には珍しい指導担当制で、就職活動を手厚くサポートします。



卒業生や内定済の4年生が後輩にアドバイスなどの支援をする「就職アドバイザー制度」や、エアライン業界への就職をサポートする「エアライン就職サポート【M-CAP】」など、多彩な学生支援プログラムを実施し、就活支援の充実を図っています。

全国の大学における 2022 年 3 月卒の就職動向

▶ 現行の就活ルール施行以降最高の内定率(2022年6月時点)

2023年3月卒(23卒)学生の内定率は、6/1現在では73.1%で、昨年の68.5%から4.6%高くなりました。これは現行の就活ルールとなって以降の7年間で最高の数字です^{※1}。以前からの採用プロセスの早期化に加え、Web化による選考プロセスの効率化や学生の選考への応募のしやすさが影響しているようです。また、内定獲得が同時期に集中しているため、内定辞退が多く生じることが想定される状況でした。

※1:就職みらい研究所「就職プロセス調査(2023年卒)-2022年6月1日時点 内定状況-」2022年6月7日

▶ オンラインを希望する学生が増加するも、最終面接は対面を希望

卒業年次前年の9月時点での調査^{※2}において、インターンシップ・説明会・面接のWeb(オンライン)開催を希望する学生の割合が増加。各プロセス別にみると、インターンシップ29.1%(前年18.2%)、企業説明会48.2%(前年35.3%)、最終面接以前の面接25.2%(前年19.4%)と、いずれもWeb希望者が増えています。一方、最終面接は対面希望が69.5%(前年66.6%)、内定者懇親会は64.2%(前年61.8%)と、進路を決断する最終局面では対面の場を求めていることがわかります。

※2:就職みらい研究所「2023年卒 インターンシップ・就職活動準備に関する調査」2021年11月29日

CAREER DECISION

就職活動体験談の
気になるホントの

先輩に聞いてみた！

軸をしっかりと持って 自分らしい就活ができた！

就活は3年の春頃から始めたのですが、最初はどう進めればよいかわからず、資格を持っていた住宅業界に絞って漠然と有名企業を当たっていました。キャリアセンターの職員の方に相談した際に「就活の軸は？」「どんなふうに通きたいかを考えてみて」といったアドバイスをいただき、「チームで働けるような職場」「常に成長できる環境」といった道筋が見えてきました。そこで、秋からは業界を絞らずにインターンや説明会に積極的に参加するようになりました。内定先のミツカンでは、社内向けのシステムを提供する情報部門で働きます。最新の知識を日々アップデートしながら、常に現場の声に寄り添える存在になりたいと思っています。



都市情報学部 4 年
長坂 拓海 さん

内定先
静岡銀行

CBMLでの学びから、 地域住民を支える職業へ

大学受験時には将来つきたい職業が定まっていなかったのも、いろいろな学問に触れることのできる、文理融合の都市情報学部へ進学しました。就活では、当初から金融系が第一志望でしたが他業界も覗いてみたかったので、3年秋から業界問わず20社ほどインターンシップに参加しました。キャリアセンターにはインターンから面接、エントリーシート対策までたくさんお世話になりました。最終的には、地域住民の方々の生活を支えていける地方銀行に魅力を感じ、静岡銀行への就職を決めました。CBMLで美濃加茂市に何度も足を運び、現地を見て生の声を聞く経験をしたことが、進路決定の大きな決め手となりました。

就活

都市情報学部 4 年
鳥越 優稀 さん

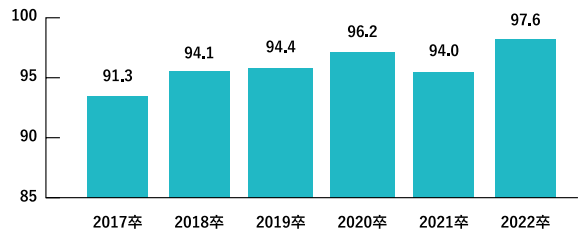
内定先
株式会社Mizkan



JOB HUNTING STORY OF SENIOR

都市情報学部 就職状況

卒業生から大学院進学者を除いた者に対する就職者の割合

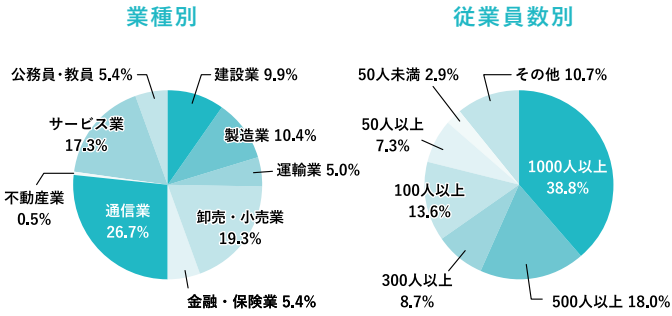


文部科学省・厚生労働省の調査では、2022年3月卒業(22卒)の大学生の就職率(就職希望者に対する就職者の割合)は95.8%でしたが、都市情報学部の就職率はその平均値を4.2上回り、100.0%となりました。都市情報学部の実就職率(卒業生から大学院進学者数を除いた者に対する就職者の割合)は97.6%で、昨年に引き続き、高水準を維持しています。就職以外の者は8人で、3人が大学院進学、1人がその他の進学や公務員、教員、国家資格を目指す者です。それ以外の4人(昨年8人)はアルバイト等です。

都市情報学部 主な就職先 30 社（2022 年 4 月入社）

イオンリテール	JR 東海	SUBARU	富士ソフト	静岡県庁
NTT フィールドテクノ	JA あいち経済連	積水ハウス	マキタ	名古屋市役所
岐阜信用金庫	システナ	玉野総合コンサルタント	山崎製パン	岐阜市役所
ゲオホールディングス	システムリサーチ	中央発條	リコージャパン	豊川市役所
サイバーエージェント	十六銀行	TIS	リンナイ	愛知県警察本部
シーイーシー	Sky	トヨタシステムズ	名古屋国税局(国税専門官)	東京消防庁
(五十音順で掲載)				

就職率 **100%** 実就職率 **97.6%** 卒業生から大学院進学者数を除いた者に対する就職者の割合



業種別 昨年と比較し、建設業が1.7増、製造業が1.6増、金融・保険業が1.3増、運輸業が0.9増、通信業が0.7増になり、公務員・教員が4.6減、卸売・小売業が0.7減、不動産業が0.7減、サービス業が0.3減でした。

従業員数別 従業員の規模別では、500人以上の大企業への就職は合計で56.8%でした。昨年から1.1減となったものの5割強の学生が500人以上の大企業へ就職しています。

都市情報学部 後援会補助制度のご案内

資格試験等受験料補助制度について

都市情報学部後援会（在学生父母等の会）は、より多くの都市情報学部生の皆さんが資格取得を目指して各種検定試験にチャレンジすることや、資格取得が自信となって就職活動・キャリアアップに繋げることを期待し、各種資格試験等受験料の全額または一部を補助することで支援いたします。

補助内容および支給方法

- ① 各種資格試験等を受験した場合、申請に基づき、一人につき、同年度内において2回まで受験料の全額または一部を補助いたします。
- ② 受験料補助の対象となる資格試験等は、行政書士、宅地建物取引士、等、範囲がありますので学部事務までお問い合わせください。
- ③ 2回の補助額合計は、8,000円を超えないものとします。なお、2回目の申請は、上限までの残額が1,000円以上とします。
- ④ 補助金の支給は、補助申請月の翌月末日までに、学生本人または学資負担者名義の口座に振込で行います。

申請要件（資格）

- ① 名城大学都市情報学部内に在籍（休学中でも申請可）し、かつ父母が都市情報学部後援会に入会していること。
- ② 都市情報学部後援会が補助対象に指定した資格試験等を受験し、実際に受験したことを証明する資料（写し可）が提示できること。ただし、可否等は問いません。

申請方法および申請期間

- ① 補助希望者は、後援会指定の申請書類等を添えて期間内に申請してください。
- ② 申請期間は、原則として、受験月から翌々月末日までといたします。ただし、3月中の申請分は、補助金支給が4月になりますので翌年度分の補助として取り扱います。そのため、4年次学生による申請は2月末までとなりますが、この場合の補助金支給は、卒業日までに完了いたします。

申請書類

- ① 資格試験受験料補助申請書
- ② 銀行口座振込依頼書 ※通帳の写しを添付
- ③ 受験料領収書（原本のみ）または振込明細書（原本のみ）
- ④ 受験したことを証明する資料（写し可）※例えば可否通知など

『TOEIC-IP』試験受験料補助制度について

都市情報学部後援会（在学生父母等の会）は、名城大学 都市情報学部の学生の皆さんが、実践的な英語能力に自ら磨きをかけ頂くきっかけとすることや、受験料に対する経済的支援を目的として、名城大学ナゴヤドーム前キャンパスで実施される『TOEIC-IP』試験の受験料を補助いたします。

補助内容および支給方法

- ① 名城大学ナゴヤドーム前キャンパスにおいて、実施される『TOEIC-IP』試験の受験料補助として、申請に基づき、1年度につき1人1回のみ受験料を全額補助いたします。
- ② 補助金の支給は、補助申請月の翌月末日までに、学生本人または学資負担者名義の口座に振込で行います。

申請要件（資格）

- ① 名城大学都市情報学部内に在籍（休学中でも申請可）し、かつ父母が都市情報学部後援会に入会していること。
- ② ドーム前Cで実施された『TOEIC-IP』試験を受験した者。

申請方法および申請期間

- ① 補助希望者は、後援会指定の書類および受験を証明する書類等を添えて期間内に申請してください。 ※申請期間はお問い合わせください。

申請書類

- ① 学内『TOEIC-IP』試験受験料補助申請書
- ② 銀行口座振込依頼書 ※通帳の写しを添付
- ③ 受験料領収書（原本のみ）または振込明細書（原本のみ）
- ④ 『TOEIC-IP』試験スコアレポートの写し

エクステンション講座受講料補助制度について

都市情報学部後援会（在学生父母等の会）は、名城大学都市情報学部が重点課題に掲げる「学部学生の人材高度化支援」に呼応し、本学エクステンション講座を利用する都市情報学部生の皆さんを、対象講座の受講料の一部を補助することで支援します。

補助内容および支給方法

- ① 後援会が指定するエクステンション講座を受講した場合、申請に基づき、一人につき、1講座分の受講料の一部を補助いたします。
- ② 補助の対象となる講座、補助額は、次のとおりです。
※受講料は2022年のもの

補助対象講座名	受講料（後援会補助金額）
公務員 国家一般職・地方上級（行政職）コース	90,000円（8,000円）
公務員 市町村・警察・消防コース	54,000円（8,000円）
公務員 基礎 通年コース（2年生対象）	51,000円（5,000円）
公務員入門コース（1年生対象）	12,000円（2,000円）
SPI 試験対策講座	11,000円（3,000円）

- ③ 補助金の支給は、本学エクステンションセンターに受講料の全額が納入された後、学生本人または学資負担者名義の口座振込で行います。なお、予め納入受講料額から補助金額を差し引くことはできません。
- ④ 補助金の支給期日は、補助申請月の翌月末日まで（3月は卒業式日まで）に完了する予定です。

申請要件（資格）

- ① 名城大学都市情報学部内に在籍（休学中でも申請可）し、かつ父母が都市情報学部後援会に入会していること。
- ② 都市情報学部後援会が補助対象に指定した講座を受講して、全日程が終了した後に当該講座の出席率が7割以上であったことが確認できること。なお、ナゴヤドーム前キャンパス事務室内のキャリア支援窓口で各講座の出欠状況が確認できます。各自で申請前にお問い合わせのうえ、必ず申請要件を満たしていることを確認してください。

申請方法および申請期間

- ① 補助希望者は、都市情報学部後援会指定の書類を添えて期間内に申請してください。
- ② 申請期間は、当該講座の最終開講日の14日前から3月中旬までといたします。

申請書類

- ① エクステンション講座受講料補助申請書
- ② 銀行口座振込依頼書 ※通帳の写しを添付

📧 問い合わせ・申請書類の提出先

〒461-8534 名古屋市中区矢田南四丁目102番9
名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス
都市情報学部事務室内

都市情報学部後援会事務局

学部長よりみなさまへ

平成7(1995)年4月、名城大学の6番目の学部として、当時の可児キャンパス(岐阜県可児市)に開設された都市情報学部は、令和4(2022)度末で創立28周年を迎えます。23年目となる平成29(2017)年4月に、開設したばかりのナゴヤドーム前キャンパス(名古屋市東区)に移転し、現在の姿となりました。その間、学部を取り巻く状況は時代と共に変化してきましたが、その都度カリキュラムの修正などを行いながら、私たちは一貫して設立当初に学部の掲げた目標である「都市問題の解決」「未来の都市創造」のための教育・研究に取り組み、学部の伝統を積み重ねてきました。

この1年を振り返ってみますと、やはり「コロナ禍3年目」の学部運営であったことが一番大きなことです。今年度は対面授業実施の条件が緩和され、教室の収容定員の2/3までの収容・着席を可とし、それを超える授業のみ遠隔授業となりました。そのため、一部の講義を除きほとんどの講義が対面授業となり、平常の姿にずいぶん近づきました。とはいえ、これまで同様マスクの着用は必須で、本来とは異なる風景が続いたことは事実です。今年度の卒業生は、入学して1年も経たないうちに突然コロナ禍となり、卒業に至るまでずっとマスク着用でのキャンパス生活で、不自由を余儀なくされてきたことは誠に残念でなりません。いずれにせよ、突然始まった1年目や、少し順応した2年目とは大きく異なり、3年目となる今年は学生・教職員いずれも柔軟に対処しながら、平常時と比べて遜色ない学びを実行できたのではないかと感じています。学生にも教職員のみなさまにも、感謝を申し上げます。

令和4(2022)年度から、本学部は新しいチャレンジを始めました。まちづくりに対するひとつの視点という意味で非常に重要である、観光分野の科目の充実です。観光系の科目を学ぶ方にキャリア認証プログラムを提供、さらに要件を満たした方には「キャリア認証プログラム(ツーリズム分野)」の修了証を交付し、観光分野での活躍をサポートします。続いて、令和5(2023)年度からのカリキュラムでは学生のみなさんのニーズに応える科目として「まちづくり実習(CBML)」を導入し、それを支えるいくつかの魅力的な科目を配置しました。CBMLとは、Community Based Machizukuri Learningの略であり、自治体と連携し、まちづくりを体験的かつ実務的に学ぶ内容です。これまで正課外の活動でありながらとても好評であった事業を正課の授業科目として導入することで、学生のみなさんの「こんなことが学んでみたい」「こんな風に学んでみたい」という希望に応える科目になると確信しています。

令和6(2024)年度に迎える創立30周年を間近に控え、本学部はさらなる飛躍を続けていきます。今後とも、本学部への変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。

名城大学 都市情報学部 学部長

亀井 栄治

都市情報学部の「学部の窓」とは

光や風を取り入れたり、景色を眺めたりする「窓」。窓には、こちら側とむこう側をつなぐ役割があると思います。この「学部の窓」は、都市情報学部とのさまざまな「つながり」を共有します。

この一冊を通して、地域や社会とのつながり、先生や卒業生、後援会の方々とのつながりを感じてもらえたら嬉しく思います。

学部の窓 No.28 | Faculty News 2023

発行日：2023年3月17日

編集・発行：名城大学 都市情報学部 後援会

入試広報委員会

委員長：西野 隆典

委員：水野 隆文 杉浦 伸 田口 純子 森 龍太

※本誌取材は大学構内のルールを遵守し、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上でおこないました。

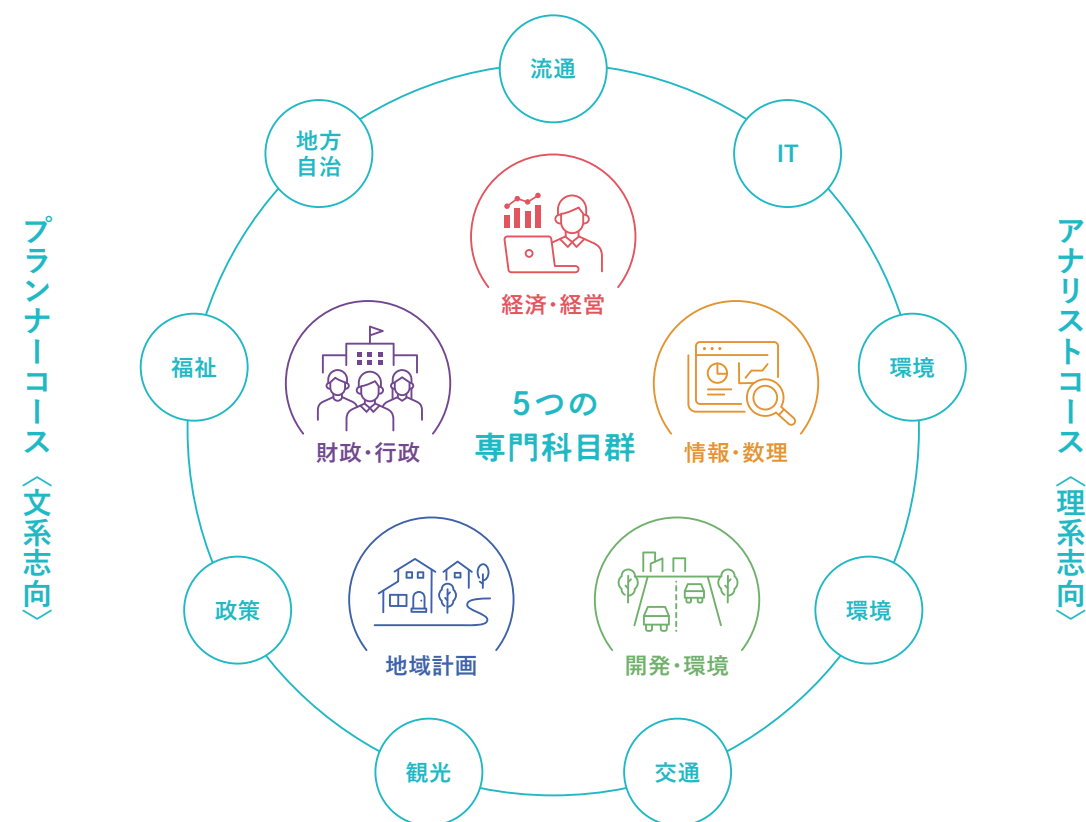
都市情報学部について

分析力と創造力で、どんなまちをつくろう。

Make your city attractive with your analysis and creativity!

名城大学都市情報学部は、人が住みやすい新しい都市像を創造し、情報化社会に役立つ人材を育成する全国唯一の学部です。

現在の都市が抱える諸問題を総合的に解決するための視野と知識の修得をめざして幅広い教育を実践しています。



経済・経営

経済学・経営学のアプローチから、企業や地場産業の経済活動を分析。事業のマネジメントや金融、流通などについても学びます。

財政・行政

国や自治体の財政状況と、行政による都市政策を分析します。社会保障や自治、福祉などについてもさまざまな視点で知り深めます。

地域計画

市民のためのまちづくり政策について考えます。都市計画や都市デザイン、防災、交通や観光など、幅広い分野で分析していきます。

開発・環境

まちづくりにおける開発・環境問題について分析。事業構想や地域開発、さらに地域環境の評価や保全、マネジメントまで学びます。

情報・数理

都市問題を分析する手法や考え方を身につけ、研究します。データ分析や数理、情報処理など、情報社会に必要なスキルも磨きます。

学びのステップ

1年次

“都市情報学”とは何か、その概念を知る

一口に“都市情報学”と言っても、その学問領域は広く、文系・理系の枠に留まりません。そこで、1年次に『都市情報学概論I・II』を開講し、今後4年間の学びや研究のテーマを紹介していきます。授業は都市情報学部の全教員がオムニバス形式で担当。都市情報学部の学びの広さに触れることができ、都市問題に対する関心を引き出します。

情報処理の基礎的能力を修得

1・2年次に履修するコンピューター演習科目は、少人数制できめ細かく指導。演習を通して、必要な基礎知識や技能、OS(Windows・Linux)の操作方法や、コンピューター言語(VB・C言語)などを学び、高度情報社会で活躍できるスキルを身に付けます。

3・4年次

新しい都市の創造をめざし、5つの専門科目群を設置。少人数ゼミナールにて問題発見・解決能力を育てる

主に3年次では進路志望に沿って各科目群の科目を横断的に学習します。ゼミナールは1ゼミナールあたり8人前後の徹底した少人数教育で行います。3・4年次の2年間にわたり、対話や討論、実習、調査等を通じて問題の分析および解決の能力を養い、発表等の技術を身に付けます。各自の研究テーマは卒業論文としてまとめ、発表します。

